

「無知である」ということ

1. はじめに～「目に見えない障害」～

私が以前アルバイトをしていたパン屋さんに車椅子のお客さんが来店した際の出来事である。当時そのお店はオープンしたばかりで連日多くのお客さんが訪れていたこともあり、私から見て車椅子のお客さんが買い物をするには少々不便であるように感じたため「良かったら私がパンをお取りしましょうか？」と声をかけた。するとそのお客さんは私の方を見ることもなく自分でパンを選び始めた。また、そのお客さんが会計にレジに来た時「袋付けますか？」と私が尋ねるとまた返事がなかったのもう一度聞くとその方は自分の耳を指さして両手で×を作り「耳が聞こえない」ということを伝えてくれた。そこからジェスチャーで接客をして対応したが、私はその時「知らないって怖いな」と感じた。話しかけて無視されたと思った時少なからず「何この人、返事くらいしてよ」という負の印象を抱いてしまっていたからである。しかし耳が聞こえないと知った途端にお客さんに対して配慮が足りなかったなと反省した。

私はこの経験から「周囲の人が気付くのが困難な障害」がある人への支援について調べようと考えた。

2. 様々な障害者の困りとその支援

・【聴覚障害】聴覚障害と一概に言っても聞こえ方は様々であるためコミュニケーションの方法も人によって違う

→どんな配慮をすればよいか本人に尋ね、希望に沿った方法で会話を試みる。筆談の場合にはなるべく簡潔に分かりやすい表現を心掛ける。顔全体が見えるように話す、など。

・【知的障害】自分の考えを上手く相手に伝えられない

→話をよく聞こうとする姿勢を見せ、こちらの意見を押し付けるような言い方はしない。

・【内部に障害がある場合】携帯電話の電波が悪影響となったりたばこの煙で苦しんだりする

→「ハートプラスマーク」や「ヘルプマーク」をバックなどにつけている場合があるためそれを意識して接することが重要

3. まとめ

世の中には自分が知らないだけで様々な障害がある人がいてそれぞれ生活に困難を抱えているため私たちは常にそれを知ろうと努力する必要があると考える。知るだけでどんな行動をとれば良いか、どんな配慮が必要かを考えられるようになり互いに思いやれる社会が実現していくと感じた。

『参考文献』

・誰もが暮らしやすい社会のために「私たちにできる心づかい」

<https://www.city.sayama.saitama.jp/fukushi/shogai/shienserbis/watasitatinidekiruko.html>

・聴覚障害のある方と出会ったら・・・

<https://www.city.hamura.tokyo.jp/0000002875.html>